

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月14日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872501002		
法人名	社会福祉法人 豊潤会		
事業所名	グループホーム ひより	ユニット名	
所在地	〒319-2512 茨城県常陸大宮市下檜沢3526		
自己評価作成日	平成22年5月17日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月8日	評価確定日	平成22年10月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・広い畑があり、季節の野菜を栽培し食事に取り入れている。</li><li>・苗の植え付けや収穫など、利用者が今迄の経験を生かして参加できる。</li><li>・運営推進会議も定期的開催出来ており、地域の方との連携が密になってきている。</li><li>・車の騒音もなく、鳥の鳴き声が聞こえる静かな環境である。</li></ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山間地域で車往来が少なく静かな環境の場所に立地している。 管理者は利用者が四季を五感で感じながら玄関の鍵をかけずに自由な生活ができるよう支援している。</p> <p>職員は利用者の生活歴を把握するとともに、広い畑で利用者と一緒に沢山の野菜を収穫して食材にするなど、利用者のこれまでの経験を活かし生き生きとした生活が送れるよう支援している。 協力医療機関と連携し往診や訪問看護師との24時間連絡体制が整っており、適切な医療が受けられ利用者の暮らしの安心につながっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の連携を考慮し、新たに改定された「入所者の自分らしさと可能性、いつでも発揮できるよう、家族や地域と連携し、随時不安を取り除きます。」という理念を見易い所に掲示し、職員全員が共有して実践に向けて取り組んでいる。	「利用者の自分らしさと可能性、いつでも発揮できるよう、家族と地域と連携し、随時不安を取り除きます。」との理念を職員と代表者で作成している。 月1回の会議で理念を確認するとともに、事業所の見易い場所に掲示し、全職員で共有しながら実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や老人会などの行事に声をかけて頂き、積極的に参加している。地域の方のボランティアによる演芸の発表やホームの草刈りなど、多くの支援を頂き、以前にも増した一体感が生まれている。	自治会に加入し利用者は老人会の行事や地域の夏祭りに積極的に参加しているほか、地域のボランティアによる演芸を観覧している。 地域の人々が事業所の庭の草取りをしてくれたり、野菜の栽培や鶏の飼育方法を教えてくれるなど、地域との交流の輪が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の高齢者を抱える家族等の電話などでの相談に応じている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に会議を開き、活発な意見、アドバイスを頂き日頃のサービスに取り入れている。昼食は利用者と同じ食事を提供し、試食して頂き、感想などを頂いている。	運営推進会議は市職員を含め2ヶ月に1回開催するとともに会議録を作成している。 会議では利用者の状態や介護認定についての説明、スプリンクラー設置の協力など活発な意見交換が行われ、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 事業所敷地内に井戸があるため、「災害時に地域住民の避難場所に使いたい」という意見を受け現在検討している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、当施設での取組みなどを伝えている。	市担当者は運営推進会議に出席し、地域災害や医療関係の緊急対策などの情報提供をしたり、地域の人々や職員と活発な意見交換を行うなど協力関係を築いている。 市担当者は休日にも事業所を訪れてくれるので、その都度相談などをして協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、門は夜間以外は施錠せず、自由に出入りして頂いている。 又、職員が研修に参加した時には、ミーティングを開き、拘束について得た情報を話し合うなどしている。	職員は外部研修に参加したり内部の勉強会で身体拘束の弊害を理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 門扉や玄関、居室は施錠せず、利用者は職員に見守られ自由に暮らしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「学びの回覧」を使い、職員全員が実践するよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会での資料を、「学びの回覧」として活用し、学ぶ機会を作るよう心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に詳しく説明し、理解頂けるよう努めている。 疑問点なども随時説明をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。意見や要望は、出来るだけ実践出来る様心がけているが、検討が必要な場合は職員間や家族と相談しながら進めている。又、運営推進会議での意見も参考にして反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、運営推進会議に利用者や家族代表が出席しているが、意見や要望を把握するまでには至っていない。	年1回以上家族等に無記名のアンケートを実施し、家族等の立場からは言い難い率直な意見を汲みあげるように努め、出た意見等を運営に反映させることを提案する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開くミーティングの際に、自由に議題を提供してもらう事している。小さな疑問点や提案、意見など参加者全員で話し合い、運営に反映させるよう心がけている。	代表者や管理者は月1回の職員会議で自由に意見交換ができるよう、職員のロッカー扉に会議の議題を貼り運営に関する疑問や意見、アイデアなどを自由に書き込んで貰いそれを参考に活発な意見交換をしている。 会議では入浴介助時の洗い方を統一するとの意見が出たり、おむつなどは見えにくい場所に置いた方がよいとの意見を受け職員が箱を作るなど、具体的に出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期に当施設に来所し、内外の様子を見ると共に、スタッフの意見に耳を傾けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催予定の研修などの情報を提供し、個々に合った研修を受けるよう働きかけている。キャリアアップ制度の説明をし、職員の向上心に繋がるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に入会し、積極的に参加して、情報交換や意見交換などしている。又、他施設を見学させてもらったりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や家族からの情報などを、出来るだけ多くの情報を職員全員で共有し、不安を取り除き安心して過ごして頂けるように心がけ、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の時には面接を行い、話し合う機会を設けている。小さな事でもきちんと受け止め、家族等の不安を取り除き、良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行い、話し合える機会を設けている。当施設に限らず、他のサービスも含めてアドバイスするよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員心がけ実践している。個々の生活歴から野菜作りや料理、書道など、得意な事柄の助言や知恵を頂いている。時には相談事を聞いてもらい、人生の先輩としてのアドバイスを頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の話をよく聞き、本人との係りを理解し、家族の心情などを大切にしていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人の話から、様々な情報を職員全員が共有し、思い出などを一緒に回想したりしている。友人や幼なじみ等からの電話を取り次いだり、施設に出向いてくれるよう働きかけたりしている。	管理者は外出や墓参り、外食など利用者の希望を家族等に伝え出かけられるよう支援している。 近隣の馴染みの理美容店に1ヶ月に1回来訪してもらえるよう連絡調整を行い支援している。 友人や家族等からの電話をつないだり、遊びに来てもらえるよう働きかけ、これまでの関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ミーティングや朝夕の申し送り、申し送りノートの活用で、様々な情報を共有し支援するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新盆に訪問してる。相談などがあった場合には、随時対応するよう心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人の話から得た、今までの生活歴や習慣を、職員全員が把握し、新聞や牛乳を契約したり、鶏の世話や畑の手入れなどの担当をして頂くなどして、その人らしい暮らし方の希望に添えるよう努めている。	職員は基本情報から利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、日々の係わりの中で利用者の行動や表情を観察し思いや意向の把握に努め、新聞や牛乳の宅配契約をするなど希望にそうよう支援している。 意志疎通が困難な利用者には家族等の来訪時や電話で話を聴き、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、サマリーや個人情報表、家族の情報などから把握し、職員全員で共有していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族からの情報やサマリーなどの情報に合わせ、施設の暮らしの中で、個々の言動を観察して得られた情報を、職員全員で共有し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等の意見を聞くと共に、日常生活の係りの中での職員の気付きなどを元にカンファレンスを行い、計画を作成している。モニタリング表でチェックし、見直している。	介護計画は利用者や家族等の意見を聴き、全体会議で作成し家族等の確認を得るとともに、毎月モニタリングを行い6ヶ月毎に見直すほか、新たな課題や心身の状態に変化が生じた場合は随時見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアサービス表の他、介護日誌を使い、個々の生活状況を時間を追って記録し、ケアの内容や変化なども、朝夕の申し送りや、申し送りノート、ミーティング等で報告し話し合う事で、職員全員が情報を共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わる受診代行や、医療連携体制による看護師への24時間の連絡が可能である。又、家族等が来所の際には、希望により食事の提供も行っている。家族の宿泊も受け入れている。面会時間も、決められた時間以外も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校との交流や、運営推進委員の方々による地域の行事参加への援助、ボランティアによる歌の会やお祭りへの参加、又、地域の消防署の協力による避難訓練なども体験していただき、安全に楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿えるよう、受診医療機関などを決定し、受診するようにしている。又、地元医療機関と連携をとり、必要に応じ往診や昼夜の訪問看護の依頼が可能であり、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族等の意向を踏まえ利用前からのかかりつけ医に受診できるよう職員が付き添い支援している。 協力医療機関の医師が月1回往診するほか、訪問看護師と24時間連絡が可能であり、緊急時を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元医療機関との連携により、24時間、訪問看護との連絡がとれる体制になっている。個々の利用者の状態により、日常的に連絡を取り、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子、退院後の対応などの情報交換に努め、職員全員が情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における医療処置について、主治医から経過や状態について説明を受け、医師、家族、職員とで治療の方針などを話し合っている。又、看取りの方針も作成しており、利用時には家族にきちんと説明すると共に依頼書を提出してもらい、職員はこれらの情報を共有し支援するように努めている。	重度化や終末期に向けて看取りに関する指針や同意書を作成し契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 ターミナルケアの経験があり、事業所としてできること、できないことについて十分に家族等に説明しているほか、協力医療機関や看護師、職員などチームでの支援体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設外で訓練を受けた職員がいるが、施設内では初期対応の訓練を行っておらず、今後地元消防署に依頼して実践的な訓練を行なって行きたい。応援要請の為に緊急連絡網は作成して、見易いところに掲示してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力の下に、年2回の避難訓練を行なっている。職員は防火管理講習を順次受講し、訓練に役立っている。又、災害時の協力体制を運営推進会議で話し合い、委員を始め地元の数名の方の協力体制ができている。	消防署指導のもと夜間想定訓練を含め年2回以上避難訓練を実施している。職員は防火管理講習を受講し、避難訓練に役立っている。避難訓練後には反省会を行い、様々な問題点を話し合い改善に努めている。災害対策として乾パンや飲料水を備蓄している。 運営推進会議で近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけているが、協力体制を築くまでには至っていない。	運営推進会議で災害時における地域の協力体制に関して話し合い、11月の避難訓練には近隣住民の協力を得て実施する予定なので、実現することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損なわないような言葉かけや対応を心がけている。個人の情報に関する書類などは、保管場所を決めて保管している。	職員は利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に心がけている。 排泄介助時には小声で話しかけトイレのドアを閉めて外で待ったり、入浴介助時は一人ずつ対応し着脱後はタオルをかけるなど、利用者のプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ多く係り話をする事で、本人の希望を取り入れられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の会話や様子から本人の希望を汲み取り、その人なりのペース配分を心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある時などに、衣類などの購入に外出したりしている。又、散髪も希望のある時などに、顔なじみの理容店に来所してもらい行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の仕分けなど、出来る事を手伝ってもらい、食事内容も好みに合わせて変えたりするなど、工夫して喜んで頂いている。 たまに外食なども取り入れ、楽しみを作っている。	利用者はできる範囲で食事の準備や配膳、下膳などを手伝っている。 職員は声かけや食事介助をしながら利用者と一緒に食事をしている。 利用者の好みに合わせて献立を変えたり、外食を取り入れ食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の作成した献立に沿った食事の提供をし、摂取量も個々の記録に反映している。個々の状態によって食材の切り方など工夫している。お茶は常備しており、必要なら補水液なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけを忘れずに行ない、習慣化に努めている。仕上げの介助を行っている。必要に応じて、電動歯ブラシなども使用している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄のパターンを知り、声掛けするよう心がけている。	職員は排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの習慣を把握するとともに、時間でのトイレ誘導や声かけを行いトイレで排泄ができるよう支援している。 夜間もトイレで排泄ができるよう誘導したり、居室にポータブルトイレを置き支援している。 排泄の自立に向け利用者の状態に合ったパット使用を検討し支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入して、排便の状態や回数に気を配っている。必要に応じ、医師の診察を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な曜日は決めてあるが、個々の状態に合わせ、いつでも入浴できるように心がけている。	基本的には午前中の入浴を支援しているが、利用者の希望にそって午後の入浴も支援している。 風呂は毎日用意しているが、医師の入浴指示書や利用者の希望を受け、平均週2回から3回の入浴を支援している。 安心して入浴できるよう福祉用具椅子を準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じた眠れる為の支援をしている。手を握ったり、話を聞いたり、足浴をしたり湯たんぽを入れたして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名入りの袋に、朝昼夕とそれぞれに分けて薬を入れて保管して置き、服薬の有無を記録している。様子に変化があった場合、バイタル表に記入し、施設長に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の生活歴を把握し、個々に合った役割をして頂き、趣味などを活かしながら楽しく毎日が送れるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出たり、戸外でお茶を楽しんだりしている。又、年間行事として毎月のドライブや花見、買い物などを行なっている。職員と、ゴミ出しなどに同行してもらい、気分転換が図れるよう工夫している。	職員は利用者の体調に配慮しながら天気の良い日は散歩に出かけたり、ゴミ出しなど日常的に出かけられるよう支援している。 職員は年間行事を計画し事業所の大型バスを利用して、利用者がドライブや花見、買い物、りんご狩りなど様々な場所に外出できるよう支援している。 利用者は家族等の協力を得ながら墓参りや外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持って買い物に出ている。管理が出来ない入所者に関しては、職員が代行して支払いを行なうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を尊重し、いつでも電話の取次ぎを行なっている。内容によっては、後から職員がフォローの電話を入れている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間がいつも明るいものであるように心がけ、鼻を飾ったりするなどの工夫をしている。大きな窓もあり、庭の野菜や草花を眺め、季節を感じて頂いている。厨房からは調理の匂いや音がして、生活感に浸りながら暮らしている。	リビング兼食堂は明るく広く換気や遮光に配慮されているとともに、季節の花や行事の写真を飾り、季節感を取り入れている。 リビング兼食堂からは花壇やトマトやなす、ジャガイモ、ネギなど種類豊富な野菜を作っている畑が見渡せる。 庭でお茶を飲んだり寛げるようテーブルや椅子を用意し、家庭的で心安まる環境となるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎルームやテラス、食堂など、一人ひとりが好きな場所を自由に使用して、テレビを観たり景色を眺めたり、会話を楽しんだりしながら過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や思い出の品等を持ち込んでいただき、居心地良く過ごせるように工夫している。	管理者は契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持ち込んでもらうよう説明している。 居室はフロアでタンスや時計、衣類、テレビ、ポータブルトイレ、写真などを持ち込み、以前と変わりなく暮らせるよう居心地良い居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせて手摺を増設している。入浴の際の椅子の位置の工夫で、自力で身体を支えられるなどの力が発揮できている。 畑仕事を好む方の為には、道具の置き場所を伝え、自由に使用していただき、希望のものがあれば購入している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ひより

作成日 平成22年11月1日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 ・運営推進会議で近隣住民への参加を呼び掛けているが、協力体制を築くまでには至っていない。	地域住民の方の協力を得ながら避難訓練を実施し、実際に災害があった場合の協力体制を築く。	年2回の避難訓練のうち11月の訓練で、運営推進会議の際に協力の意思表示のあった委員や地域住民の方々に声をかけ、避難訓練への参加を依頼する。消火器による消火訓練など行う。	H22・11・16 実施予定
2	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 ・苦情相談窓口の個別の電話番号が明記されていない。 ・家族等の意見、要望を把握するまでに至っていない。	・苦情相談窓口を明確に表記する。 ・家族等の意見や要望が把握できる手段の検討をする。	・重要事項説明書の苦情相談窓口の記載個所に、個別の電話番号も明記する。 ・年1回、家族向けに無記名のアンケートを実施し、率直な意見を出して頂き、内容を運営に反映できるようにする。	電話番号は12月末までに明記。 アンケートはH23・3月末までに実施予定
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。